

開倫塾ニュース送付の御案内

開倫塾に在籍中に「学び方を学ぶ」スキル・能力を身に付けよう

- 偏差値 5 アップ、定期テスト 100 点取得の具体的方法とは -

開倫塾

塾長 林 明夫

ごあいさつ

- (1)この開倫塾ニュース御送付の御案内の「開倫塾塾長通信」には、開倫塾ニュースの巻頭言ではスペースの都合でお伝えできなかった事柄を掲載させていただいております。
- (2)開倫塾では、もとより「学校成績の向上」と「希望校合格」など「学力向上」のための指導が中心であります。ただ、学力向上の前提条件は、「学び方を学ぶ」スキル・能力を身に付けることと、新聞を含め幅広い「読書」で「思慮深さ」を身に付けることであることに御注意下さい。
- (3)以前から開倫塾に在塾の塾生や保護者の皆様はお気づきとは存じますが、開倫塾では創業以来 29 年間に渡って「学力向上」と同時に「自己学習能力の育成」を教育目標に掲げております。これは、開倫塾に在籍中に「学校成績の向上」と「希望校合格」を果たすために「学力向上」を図っていただきたい。同時に、「学力向上」の前提となる「学び方を学ぶ」スキル・能力と、新聞を含め幅広い「読書」により「思慮深さ」を身に付けていただきたいからであります。
- (4)開倫塾に在籍の塾生の皆様の大半は、高校卒業後に大学・短期大学・専門学校等の所謂(いわゆる)「高等教育機関」に進学なさいます。また、高等学校や高等教育機関を御卒業後は、家庭や社会、企業など様々な分野で御活躍になられることが期待されています。現代の日本社会の特色は何か。知識が基盤となった「知識社会」、外国との交流が盛んに行われる「グローバル社会」、いつまでも長生きができる「超長寿社会」であると私は考えます。このような社会では、年齢や家族、仕事、社会の様々な状況に対応するために自分らしく、また、「よく生きる」ためには文字通り一生涯学び続けることが求められます。そこで、開倫塾に在籍する期間は短いかもしれませんが、その短い期間であっても「学校成績の向上」と「希望校合格」のための「学力向上」の勉強を通じて、その前提条件としての「学び方を学ぶ」スキル・能力を身に付けること、新聞を含め幅広い「読書」で「思慮深さ」を身に付けることの大切さを学び取っていただきたく希望いたします。
- (5)開倫塾の社会的使命(mission、ミッション)は、お一人お一人の塾生の皆様の「人生の成功」に貢献することにあります。「自己学習能力」を身に付けることこそが、塾生お一人お一人の「人生の成功」に直結すると確信し、拙い内容かもしれませんが、毎月の「開倫塾ニュース」を発行させていただいております。私を含め執筆者一同、一言、一言を大切にしながら文章を書かせていただいております。また、編集スタッフも毎月 1 回の発行に向け全力を傾けております。どうかよろしく御熟読、御活用いただきたくお願い申し上げます。

今月号の巻頭言では、「偏差値 5 アップ」と「定期テストで 100 点を取る」にはどうしたらよいかという非常に難しいテーマを、「授業中」と「授業後」に分けて御説明させていただいております。内容も難しく、また、文字も細かいためお読みになりにくいと思われまので、この「塾長通信」に全文再掲載の上、コメント(解説)を加えさせていただきます。お役に立つ箇所もあると思いますので、毎月お願いして恐縮ですが、色えんぴつ、色ボールペン、マーカーなどを予め御準備いただき、必要な箇所にアンダーラインなどをお引きになりながらお読みいただければ幸いです。

巻頭言のよとの文章は、周囲を線で囲んであります。四方を線で囲んである下の部分が、そのコメント(解説)です。

開倫塾ニュース2008.11月号巻頭言

偏差値を 5 以上アップさせ、定期テストで100点を取るには
- 「授業中」と「授業後」が大切 -

開倫塾

塾長 林 明夫

- (1) 皆様がこの文章をお読みになるのは、10 月初旬、つまり受験生は受験まで半年を切った時期であります。希望校合格という「目的」の達成のためには、1 科目でもよいかから偏差値 5 アップを目指すのは当然の「目標」であります。
- (2) 非受験学年の皆様にとっては、学校成績向上という「目的」の達成のために、1 科目でも多く「定期テストで 100 点満点を取ることは当然の「目標」であります。
- (3) その大切な「目標」をクリアするためにどうするか。「授業中」と「授業後」の大切さ、過ごし方を、今月号では御説明しています。皆様がお読みになりやすいように、QandA の形で書かせていただきました。

Q：来年の入学試験に備え、今から偏差値を 5 以上アップさせるにはどうしたらよいですか。2 学期の定期テストで100点を取るにはどうしたらよいですか。よい勉強の仕方があったら教えて下さい。

A：(林明夫：以下省略)入試までに偏差値を 5 アップさせることや、定期テストで 100 点を取ることは、これから私がお話することを確実にやりさえすれば難しくはありません。ただし、「こんなことできっこないや」とあきらめたり、この文章を読むだけで実際にやらなければ、偏差値は今とあまり変わらず、また、定期テストの結果も今までとあまり変わらないことが多いと思われま。要は、やるかやらないかだけです。

- (1) ここで述べていることは、「勉強の仕方のコツ」です。学校の授業にある程度ついていける人であれば、成績が良い悪いは頭が良い悪いとは全く関係ありません。誰でも、勉強の基本、コツさえ身に付けば成績はどんどん上がるものです。まずは、成績を上げるコツ、勉強のコツを知ること、それを知ったら次に、創意・工夫をしながら実際に自分でやってみることです。もう一度言います。成績の良い悪いは、勉強をしたかしないかで決まります。頭とは全く関係ありません。

- (2) 勉強のコツは、自転車に乗る練習と同じです。初めて自転車に乗ったときには、皆様も誰かからコツを教えてもらったと思います。教えてくれる人が誰もいなかった人は、自転車に乗っている人の姿を見て、自分でコツを知ったのだと思います。このように、何かものごとをやるときには、そのやり方を人から直接教わったり、人がやっているのを見てまずはやり方を知る。その上で、失敗を繰り返しながらできるようになることが多いと思います。(ただし、いつまでもできるようにならないと、諦(あきら)めてしまうことが多いのも事実です。)
- (3) 今から入学試験までに偏差値を 5 上げることも、定期テストで 100 点を取ることも、コツさえ掴(つか)めば、そして、そのコツを頭において実際にやってみれば、それほど難しくはありません。「要は、やるかやらないかだけです。」
- (4) 少し厳(きび)しい言い方をすれば、「怠(なま)け者には福(ふく)は来ない」ということです。こと「偏差値アップ」と「定期テストの得点アップ」に関しては、「努力は必ず報(むく)われる」と断言できます。成績を上げたければ、勉強のコツを掴んで、自分で納得した方法だけでもやり抜(ぬ)けばよいと考えます。
- (5) 少し脱線するかもしれませんが、なぜ「偏差値」は高いほうがよいかお考えになったことがありますか。学力テストについて言えば、偏差値 35 や 40 では、合格できる学校がとても限られています。偏差値も 50 までくると、合格できる学校はグンと広がります。偏差値 60 を越えると、少しの学校を除いて、ほとんどの学校に入学できます。70 を越えれば、合格できない学校はなくなります。このように、偏差値が高ければ高いほど選べる学校が増える、選択肢(せんたくし)が増えるのです。人生におけるチャンスが増えるのです。
- (6) 学校の成績も良ければ良いほど、様々な機会(チャンス)に恵まれます。学校の成績が良ければ良いほど、偏差値は高くなります。上級学校に進学するときも選べる学校が増えます。奨学金をもらえる機会(チャンス)が増えます。就職する(仕事に就く)チャンスも増えます。偏差値と同じように、人生におけるチャンスが増えるのです。
- (7) このチャンスは誰にも平等に与えられています。しかし、誰も助けてはくれません。自助努力、つまり自分の努力、自分の創意工夫で掴(つか)み取らなければなりません。これが人生です。勉強のコツを知り、それを活用して、自分の力で人生の選択肢を広げて下さいね。私は、多様な選択肢のある人生は素晴らしいと考えます。

Q：どうしたらよいのですか。

A：まず第 1 に、学校や開倫塾の授業は、先生の目をしっかり見つめ、おしゃべりや居眠りをしないで真面目に真剣勝負で受けることです。大切なことは、あとで見やすい形でどんどんノートにメモをすること。計算問題や練習問題は、解答をテキストに書き込まず、必ずノートにやること。計算は、問題も必ずノートに書くこと。このように、学校や開倫塾の授業を大切にすることが第 1 です。

学校や開倫塾の授業を大切に、勉強すべきこと、身に付けるべきことを、まず「うん、なるほど」とよく「理解」して下さいね。授業はなぜ大切かといえば、テキストに書いてあることや大切なことを「うん、なるほど」とよく「理解」するためです。まずは、十分「理解」する。そのために、真剣に授業を受ける。わかりましたか。

- (1) 開倫塾では、何年か前から学習を 3 つの段階に分けて、段階ごとの勉強のコツをお伝えしています。これを「学習の 3 段階理論」といいます。

実は、この理論を考え、言い始めたのは私です。なぜかといいますと、私が学校に行っていた頃や、開倫塾を始めた 29 年前頃は、「学校ではよく授業を聴くこと」、「家では復習すること」、「テスト前にはよく勉強すること」などを、学校でも家庭でも先生や家族(保護者)が口をすっぱくして言い続けました。しかし、いつの間にか、学校でも家庭でも口をすっぱくしてこのようなことを言う人が非常に少なくなってしまいました。その結果、学校の授業中もボーツとしている人が多くなりました。また、家庭でもあまり勉強しない人が多くなったように思われてなりません。なぜこのようになったのか不思議でありませんが、現実には現実です。

あまりにもひどい学校や家庭での現実を前にして、開倫塾の塾生の学力を向上させるために、自分たちでできることはないかと考えました。今まで当たり前のこととして言われ続けたことを、大学の先生方の意見も聞きながら 4 ~ 5 年前からまとめたのが、この「学習の 3 段階理論」です。

(2)「学習の 3 段階理論」は、大きく 3 つに分かれます。第 1 は、「うん、なるほど」と十分納得すること、腑(ふ)に落ちること、つまり「理解」です。この第 1 段階の「理解」は一人でも、つまり自習でもできます。先生などから教えてもらうことも、「理解」には役立ちます。ここでは、学校や開倫塾などの「授業」を通しての「理解」について述べています。

(3)学校や開倫塾の授業で「うん、なるほど」と十分「理解」する「コツ」は何か。手を机の上に置き、先生を見ながら先生の話真剣に聞くことが第 1 かと私は考えます。授業中に先生の言うことを一言も聞き漏らすことのないように一所懸命に一つの所で命を懸けるくらいの熱心さで、一言、一言に耳を傾けること。そして、必要なことはノートにどんどんメモを取り続けることです。

(4)ノートは何のために取るかということ、あとで使用するためです。あとで見やすいように、勉強しやすいように工夫をしながらノートを取ることも、大切な勉強方法です。どのようなノートがあとで見やすいか、勉強しやすいノートなのか考えてみましょうね。

*あまりにも乱暴、乱雑なノートは関心できません。しかし、そのようなノートしか取れない人の場合は、授業後にその日の授業を思い出しながら、あとで見やすい、勉強しやすいように「ノート整理」をすることを勧(すす)めします。「ノート整理」とは、大切なことばに赤線を引くとか、項目に番号をふるなどして、あとで見やすくすること、勉強しやすくすることをいいます。ノートのどこに何が書いてあるかはっきりさせることが、ノート整理では大切です。

*もっと言えば、ノートに書いてあることをスミからスミまで身に付けるために、ノートは取るのです。そのためには、どのような形でノートを整理したらよいか。少しずつ考えて下さいね。

(5)授業での「理解」を妨げるものとして、「欠席」「遅刻」「早退」があります。その場にいなければ、「理解」ができませんからです。「居眠り」「おしゃべり」「他のことを考えていること」「ボーツとしていること」「携帯電話」も、授業での「理解」を著(いちじる)しく妨げます。その場にいれないのと同じともいえます。また、他の人の「理解」も著しく妨げます。今、二重線を引いたことがなぜまずいかといえ、自分の「理解」も妨げになるからです。場合によっては、他人の「理解」の妨げるからです。「おしゃべり」は完全な授業妨害で、許されるものではありません。おしゃべりは、授業を受ける権利の侵害、犯罪行為に近いとすらいえます。

Q : はい。「理解」しただけで、偏差値は 5 アップしますか。定期テストで 100 点が取れますか。

A : 100 人に 1 人くらいは、授業を受けるだけで偏差値が 5 上がったたり、定期テストで 100 点を取れる人がいますが、そのような人は、その日の授業を受けるまでの内容をほぼ完全に「理解」し、また、自分のものとして「身に付けている」ことが多いようです。例外といえます。

普通の人、少しはできるようになりますが、授業を受けただけで偏差値が 5 以上アップしたり、定期テストで 100 点が取れることはまずありません。

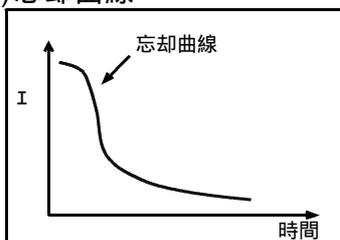
- (1) 授業に出ているだけで授業以外は全く勉強しないでも、偏差値が 5 アップしたり、定期テストで 100 点を取る人が時々います。そのような人は、よほど真剣に授業を受けているのかも知れません。授業で十分「理解」したあと、その場で授業の内容を頭に焼き付けてしまう力のある人かもしれません。しかし、そのような人は時々いますが、極めて例外です。まねをしてはいけません。
- (2) 1 つの新しいものごとを 100 % 完全に「理解」するには、それまでに学習したことを 100 % 完全に「理解」し「定着(身に付けること)」していることが大切です。それまで学習したことを 100 % 身に付けることをお勧めします。
- (3) 大変言いにくいことですが、普通の人、授業を受け「理解」しただけでは偏差値 5 アップ、定期テストで 100 点満点は取れません。良い成績は取れません。

Q：なぜですか。

A：授業を真剣に受け、授業中に「うん、なるほど」とよく「理解」しても、授業が終わりしばらくすると、悲しいことにほとんど忘れてしまうからです。授業だけ受けて授業後は何もしないのでは、1 ~ 2 か月たって覚えていることはあまりない。これが、現実です。「授業」を受けるだけでは、偏差値が大幅に上がることもなければ、定期テストで 100 点が取れる人は非常に少ない。そう断言できます。

- (1) 授業を受けている間や授業直後はある程度、一度「うん、なるほど」と「理解」した内容も覚えていきます。短期間は記憶しています。しかし、短い間記憶したことも時間がたてばたつほど忘れてしまい、長い間の記憶にはなりにくいようです。「短期記憶」をどのように「長期記憶」にしたらよいのか。「授業中や授業直後までの短い期間だけしか覚えられない記憶」を「授業終了後長い期間覚えていることができる記憶」にすることが大問題となります。

(2) 忘却曲線



覚えたことの大半は時間がたてばたつほど忘れてしまうことを表したのが、左の図です。この曲線が、有名な「忘却曲線」です。

- (3) 放っておけば、一度「うん、なるほど」と「理解」し、たとえ一時的にはたくさんの量を覚えたとしても、「忘却曲線」が示すとおり、時間がたてばたつほど忘れてしまう(記憶の量が減ってしまう)のは悲しいことですが、現実です。

Q：では、どうしたらよいのですか。

A：ここからが大切なので、よく読んで納得したら、ぜひ今日からでもやって下さいね。学校や開倫塾でその日の授業が終わったらすぐには家に帰らないで、その日の授業で勉強したことを、先生の授業を思い出しながらもう一回そっくりやり直してみることを。

(1) 学校や開倫塾の授業が終わったら、その教室でも家でもどこでもよいですから、とにかくその日の授業でやったことをもう一度やり直していただくことです。次の項目で「3大練習」、つまり「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」が紹介されています。一度「うん、なるほど」と授業で「理解」したことを、たとえ一回でもよいですから、声に出して読んだり、大切なことは書いてみたり、問題はすべて「ノート」に問題文を書き写した上で解き直して下さい。できれば、その日のうちに、たとえ一回でもよいですからもう一度やり直すこと。これが、最も効果のある勉強方法です。

(2) そのことが何なのかを「理解」することは、英語の study(スタディ)に当たります。「理解」したことを身に付けるのは、英語の learn(ラーン)に当たります。study の仕方と learn の仕方は少し違うのです。一度 study「理解」したことを身に付ける(learn する)ためには、「記憶の痕跡(こんせき)」を脳の中に残す作業が必要です。その第一歩が、授業直後かその日のうちに、たとえ一回でもよいですからもう一度やり直すことです。

(3) これで、短期記憶が少しだけ長期記憶になります。「記憶の痕跡」が、授業後何もやらないのと比べて少しは残ります。少しは残るだけです。ただし、完璧ではありません。

これは、例えば歯の治療と似ています。私は現在歯科医院に通い、歯の治療をしていただいております。以前の治療が不十分であったためか、この夏、歯が痛くなってしまいましたが、今度は本格的な歯根(しこん)治療をしていただいたため、以前よりは長くもちそうです。1～2回の中途半端な治療は少しの間はもつにしても、あとで必ず痛みを生じます。勉強もこれと同じです。1回復習しただけでは、確実な効果は出ません。

(4) ではどうしたらよいのか。次の3つの練習を徹底的に行うことです。

(1) テキストやノートを声に出して何回もゆっくり読むこと。声に出してゆっくり読みながら、「ノート整理」もしてしまうこと。大切なことは、声に出してゆっくり読みながら覚えてしまうこと。何も見ないでスラスラ言えるまでにする。

(2) 次に、テキストやノートの中で大切なことは、不要な紙を用意して何回も何回も書き取り練習をすること。英単語、漢字、社会や理科の大切な語句、数学の公式など、テキストやノートにある内容で正確に書けそうもないことは、何も見ないで正確に書けるようになるまで書き取り練習をしてみましょう。地図や教科書に出てくる図なども、スラスラかけるほうがよいですよ。

ことばの意味(定義)、つまり「 とは だ」も正確に書けるようにしましょうね。

(3) テキストに出てくる計算や練習問題で授業中にやった問題は、授業が終わったら、解答を見ずに自分の力でノートにもう一回解いてみる。(テキストに書き込みをして答えが書いてあると、授業後にもう一回やりにくくなります。学校や開倫塾のテキストには、絶対に問題の答えをメモしてはいけません。)

授業中にやらなかった問題にも挑戦してみる。いくら考えてもできない問題は先生にどんどん質問し、「うん、なるほど」とよく「理解」できたら、自分の力でもう一回「ノート」に解いてみる。

(1) 開倫塾の「学習の3段階理論」では、「理解」に続くこの段階を、「定着」と呼んでいます。「定着」とは、一度「うん、なるほど」と十分「理解」した内容を身に付けることをいいます。

小学生の頃、「かけ算九九」の意味を学校の授業で「うん、なるほど」と十分「理解」したと

思います。2 × 3 とは何か、なぜ 6 という解答が出るのかを授業で「理解」したと思います。その後、1 の段、2 の段と順に 9 の段まで少しずつ、1 × 1 = 1、1 × 2 = 2、1 × 3 = 3 と歌を覚えるように大きな声を出して覚えたと思います。何回も書いて覚えたと思います。同じ計算練習を何回も、何十回もして覚えたと思います。

これとほぼ同じことを、中学生になっても、高校生になっても、大学生になっても、また、社会に出てからも確実にを行うことで、一度「理解」したことを身に付けることができます。かけ算九九は、大きくなった今でも、8 × 9 = 72 と問題を見た瞬間にパッパッと条件反射で答えが出るのは、皆さんが「定着」のための計算練習を十分やったからです。

このように、「定着」のためには練習が大切です。「学習の 3 段階理論」では、「定着」のために「3 大練習」をお勧めしています。学力定着のための「3 大練習」とは、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の 3 つです。

「定着」のための練習の第 1 は、「音読練習」です。学校や開倫塾の授業で「うん、なるほど」と十分「理解」した内容を、大きな声で「音読練習」をし続けることは、その内容を一生忘れないくらい「定着」させます。「行(ゆ)く河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず」など鴨長明の「方丈記」のはじめの一文を 60 歳を過ぎた方がスラスラ言えるのは、学校時代に古文の教科書を何十回も音読したからです。学校を卒業して 50 年以上たってもスラスラ言えるほど、「音読練習」は効果があります。

この「音読練習」は、定期テストや高校入試だけでなく、難関大学入試や難しい国家試験にも絶大な効果があります。私の知り合いの多くは司法試験に合格し、弁護士や裁判官をしていますが、皆大きな声で法律の条文や教科書を音読していました。

高校入試や大学入試の受験生であるにもかかわらず、「音読練習」をあまりというかほとんどしていない人は、その日に勉強したところだけでよいですから「音読練習」をしてみましょう。

「音読練習」をするだけで偏差値が急に上がります。

「音読練習」の目標は、何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるようになることです。10 代は、一生のうちで最も記憶力がよい時期といわれています。「音読練習」を繰り返すことで覚えようと決意すれば、どんどん覚えられるのが 10 代の特権といえます。あまり無理はしなくてもよいですが、できるところまでやってみましょう。一度、十分「理解」した内容ほど、「音読練習」で確実に覚えられますよ。

(2) 次は「書き取り練習」です。大事な語句は、不要な紙を準備して紙が真っ黒になるくらい「書き取り練習」をすること。「音読練習」をした上に「書き取り練習」をすれば、鬼に金棒(おににかなぼう)です。怖(こわ)いものはありません。「音読練習」もしないで、見ただけで点が取れるかといえば、そのようなことはありません。

「書き取り練習」をする上で最も大事なものは、ことばの「意味」、「定義」です。教科書に出てくるものだけでもよいですから、「 は だ」というところは、すべて正確に楷書(かいしょ)で書けるようにして下さいね。「楷書」とは、教科書に出てくる「書体(しょたい)」のことをいいます。

テストの本文や問題文に出てくる英単語や英熟語は、すべて書けるようにしましょう。英語は、語彙(ごい)数を増やすことが大切です。見てわかっても、書けなければ力はつきません。「書き取り練習」をするときには、プツプツ音読すること。単語や熟語はそれだけ覚えるのではなく、用例、つまり出てきた文とともに「音読練習」や「書き取り練習」で記憶することが大切です。テストの解説文の中にある英単語、英熟語もすべて書けるようにしましょう。

英語だけでなく、数学、理科、国語、社会も、「音読練習」や「書き取り練習」は大切です。実技科目こそ抜き無く、一度「うん、なるほど」と「理解」した内容について「音読練習」「書き取り練習」を積み重ねると、100点満点が取れます。

- (3) 「定着」のための「3大練習」の最後は、「計算・問題練習」です。「計算・問題練習」の目標は、一度「うん、なるほど」と十分に「理解」した計算や問題については、問題を見た瞬間に条件反射でパッと正解が出てくるまでにすることです。例えば、 5×3 という問題を見た瞬間に、条件反射でパッと15という正解が出てくることです。基礎的な計算や問題、やさしい計算や問題ほど「計算・問題練習」を何回も何回も繰り返して、問題を見た瞬間にパッと条件反射で解答が出るまでにしておいて下さい。

くれぐれも注意しなければならないのは、学校の教科書や問題集、開倫塾のテキストや問題集に答えを書き込まないようにすることです。なぜなら、問題を見た瞬間にパッと条件反射で解答が出るまで、何回も何回も同じ問題をやり直すからです。教科書や問題集に答えが書いてあると、「計算・問題練習」ができません。

*どうしても教科書や問題集に正解を書き込まなければならないときは、あとで消せるように「えんぴつ」を使いましょう。

- (4) 授業中に「ノート」を確実に取っておくことは、この「計算・問題練習」をするときに役立ちます。なぜなら、授業中は学校や開倫塾の先生のお話を聴いて「うん、なるほど」と「理解」できたことでも、あとで自分でその計算や問題を解いてみると、よくできない場合があるからです。そのようなときには、学校や開倫塾の先生の授業をお聴きするつもりで、授業中に取った「ノート」を用いて勉強することが大切です。
- (5) 自分にとって難しい計算や問題ほど、授業中は必死になってメモを取り、解き方を詳細にノートに書き残しておくことが大切です。手が痛くなるほどひたすら「ノート」を取り続け、授業が終わったあとはその「ノート」を用いて勉強。ノートも教科書同様スミからスミまで覚えきって、グングン成績を上げている人は山ほどいます。
- (6) 「計算・問題練習」は、数学だけやればよいではありません。すべての科目で行うことが当然です。例えば、英語の書き換え問題は、問題を見た瞬間にパッと書き換えができるようにしましょうね。理科の電流の問題も同じです。学校の教科書や問題集、開倫塾のテキストや問題集などに載っていて授業でやった問題はすべて、問題を見た瞬間にパッと条件反射で正解が出るまでにすることが大切です。

Q：同じ問題は、何回くらい解けばよいのですか。

A：よい質問ですね。偏差値を1上げたければ1回。2上げたければ2回。3上げたければ3回。4上げたければ4回。5上げたければ5回。学校や開倫塾のテキストに出ている問題を、授業中にそのやり方を「うん、なるほど」とよく「理解」したあとに、5回、自分の力でノートに解けば、偏差値は5上がります。

- (1) 同じ問題は最低5回、できれば10回やって下さい。授業を聴いただけで満足してしまい、授業終了後は1回もやらないでは、話にも何にもなりません。
- (2) 1回こっきりで、偏差値が5上がるか、定期テストで100点が取れるかといえ、O.K.は出せません。最低5回、できれば10回はやって下さい。

Q：偏差値を10上げたければ、10回やればよいのですか。

A：その通りです。10回目をやるころには、問題を見た瞬間に条件反射で解答が出るようになっていていると思います。成績のよい人ほど、問題を解くスピードが速い。なぜ速いかといえば、問題を見た瞬間に「パツ」と条件反射で解答が出るからです。

学校や開倫塾で一度やった問題は5～10回自分の力でノートにやり直し、問題を見た瞬間にパツと解答できるようになっていると、本番の入試や定期テストのときにどうなると思いますか。よく知っている問題は何も考えずにスイスイ答えが出ますので、「はじめて出会った問題」つまり「難しい問題」にたっぷり時間をかけることができます。ゆっくり「考える」ことができます。「難しい問題を自分の力で考える時間」つまり「ゆとり」が生まれます。

(1)大学入試のセンター試験で9割以上取ったり、医学部や旧帝大系の大学、早慶上智などに合格した人で、「天才型」の人は別として、「コツコツ型」の人の多くは、センター試験や過去問を10年分以上、それも繰り返しやっています。

(2)また、定評あるテキストの問題や問題集を10回繰り返し、大学入試で偏差値70を取った人もたくさんいます。

このように、成績のよい人ほど、過去問や定評あるテキストの同じ問題や同じ問題集を繰り返し、繰り返し学習し、問題を見た瞬間に正解が出るまでにしているのです。

(3)難関校に合格した人、合格させた先生は、このように非常に地味な勉強方法はあまり口にしないため、あまり知れ渡っていないだけです。実は、皆やっているのです。

(4)よく考えてみれば当たり前のことですが、問題を見た瞬間に条件反射でパツパツと正解が出る問題が多ければ多いほど、模試や本番の入試では大半の問題が短い時間のうちに終わります。すると、時間に余裕が出ますから、ケアレス・ミス(うっかりミス)を見直す時間も生まれます。難しい問題や初めて出会った新作の問題、新傾向の問題に立ち向かう時間を生み出すことができます。自分の実力が発揮できるといえます。

(5)左下のように、テキストや問題集の問題番号の横上に日付を、左横に×でできなかったを記録して、5～10回同じ問題を練習してみましょう。

10/5	10/1	9/30	
			(1)問題
	×	×	(2)_____
			(3)_____
		×	(4)_____

Q：学校や開倫塾の授業が終わったあと、やることはたくさんあるんですね。

A：学校でも開倫塾でも、「授業」は「うん、なるほど」とよく「理解」するために真剣に臨む。授業が終わったら、忘れないうちに、先生や友達(クラスメート)の表情などを思い出しながら、今私がお説明したようなやり方で、授業の内容をもう一度丁寧にやり直してみる。学校なら教室や図書館(図書室)で、開倫塾なら授業後の空いている教室で、保護者や先生のお許しを得て、自分の力でやれるだけやってみる。すべてやることは難しいかもしれませんが、とりあえずやってみる。このような心掛けが大切であると私は思います。

- (1)勉強はどこでやったらいいのか。開倫塾でやるのなら、先生方がいらっしゃっている夕方から勤務時間の終了ギリギリの夜 10 時 20 分まででしたら、空いている机・いすをお使いになってどんどん勉強して下さい。
- (2)ただし、飲食やおしゃべり、携帯電話、居眠りは絶対に認めません。即刻帰宅していただきます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：成績を上げるのに大切なことは、3つあります。

- (1)「学び方を学ぶ」能力を「身に付けること」。
- (2)「読書」に励むこと。学校の教科書で紹介されているような著者の書いた本の中で自分の気に入ったものを探し、ゆっくりゆっくり読むこと。新聞も読書の一種です。新聞を毎日読んで考えること。
- (3)何のために勉強するのか、何を勉強するために上の学校に進学するのか、その意味を自分なりに考え十分「自覚」すること。「志(こころざし)」を高く持って勉強し続けること。「志」を持続すること。

この勉強についての考えは、開倫塾を創業以来 29 年間、私がずっと考え続けてきたものです。ぜひお試し下さいね。

- (1)「学び方を学ぶ」は、英語の Learning To Learn「ラーニング・トゥ・ラーン」を、私が日本語に直したものです。OECD の PISA(15 歳時国際標準学力)調査の基底をなす学力観に、Key Competency (キー・コンピテンシー) - 基本となる能力 - があります。その中で最も重要視されているのが、Learning To Learn(学び方を学ぶ)スキル・能力と、新聞を含む読書による熟慮する力、思慮深さとされています。
- (2)「ピサ型学力」として最近有名になりつつありますが、文部科学省は、新学習指導要領の中でこれらを全面展開しています。この 4 ~ 5 年の私の文章は、そのようなことを念頭に書かせていただいているものです。
- (3)何のために勉強するのか。よく生きるため、持続可能な社会の形成に役立てるためと私は考えます。自分なりの「志」と「志を持続すること」が肝要と考えます。

以上

- 2008 年 9 月 25 日記 -